

第2部 地域類型別にみた夏休み

第1部では、夏休みの中学生の行動を、いくつかの生活領域に分けて描いてきた。そこでの分析からは、各領域ごとの様子は明らかに異なるものの、夏休みにおける中学生の姿がトータルに見えてこないという限界がある。そこで、第2部では総合的に彼らの姿をとらえてみることにする。

私たちが重視したのは、地域差の視点である。地域によって、夏休み中の行動や意識はどのように異なっているのだろうか。都市化の進展、地域への都市文化の浸透、マスコミュニケーションの発達などによって、子どもたちの生活から地域性が失われ、いまや都市部と地方、山間部などとの差異がほとんどなくなってきたといわれている。第2部では、このような観点からさまざまな生活領域を総合して、地域別にみた「夏休みの中学生」像をまとめてみたい。

なお、分析に先立って地域類型を認識して

(1) 地域差を探る

夏休みの中学生の行動や意識のあり方は地域によってどのように異なっているのだろうか。ここでは次のサブ課題を設定して分析を行った。

- ①地域によって異なるのは、夏休みの行動・意識のどのような側面か。
- ②逆に、どんな側面で、地域による相違が小さいのか。
- ③どの地域とどの地域の差が大きいのか。
- ④地域類型別に夏休みの行動・意識の特徴を描くとどうなるか。

これらのサブ課題を明らかにするために、次のような作業を行った。

- ①まず、調査事項全体を次の10の領域に大別

おこう。比較を行うのは、以下の3地域類型である。

- ①都市部；東京都23区。
- ②地方市街地；長野県E郡。
- ③地方郡部；長野県F市、G郡周辺の山間部。

対象校の選定にあたっては、それぞれ都市部、地方市街地、地方郡部の類型を代表するように地域および学校を選択したが、調査規模および調査実施上の制約から、必ずしも全国的にみた場合の代表性が保証されているわけではない。したがって、安易な一般化は慎む必要があることをあらかじめ断っておく。

した。

- (1)夏休みに対する構え；休み前にどんなことを計画していたか
- (2)起床時間、朝食、就寝時間；生活習慣
- (3)家の中での過ごし方；テレビやマスメディアとの接触を中心に
- (4)勉強；学習内容、学習習慣、時間、宿題の消化のし方、夏期講習など
- (5)手伝い
- (6)外出行動；誰と、どんなところへ出かけたか
- (7)スポーツ；部活動、プール、習いごとなど
- (8)逸脱的行動経験；学校で禁止した行動

- (9)友人との諸活動；おしゃべり、電話、デートなど

- (10)夏休みを振り返って；夏休みのタイプ、楽しさなど

これらは、夏休みの行動や意識のあり方をトータルに把握するために準備した調査事項のほとんどすべてを含んでいる。

②上記の各領域ごとに、地域類型別集計を整理し、回答率の地域差（以下の3つの数値）を求めた。その結果が付表1である（P. 66表中、右から3列を参照）。

- (1)（都市部）－（地方郡部）
- (2)（都市部）－（地方市街地）
- (2)（地方市街地）－（地方郡部）

(2) 地域差はどこに？

1. 地域差が大きいのはどんな側面か？

まず、中学生の夏休みを全体としてみたとき、どのような側面に地域差が強く表れているのかをみてみよう。

表1に、各領域別に、地域差が表れた調査事項の数と比率を示した。（詳細は付表2の最右欄を参照のこと）

地域差を20%水準で評価するのか（表1左）、15%水準で評価するのかによって（同右）多少順位に相違がみられる。ここでは、より大きな地域差に注目して20%以上の比率の差がみられた事項の比率を考えてみることにしよう。表から（左）以下のことを指摘できる。

①地域差がもっとも顕著なのは「外出行動（どんなところへ誰と行ったか）」である。

②これに、「起床時間、朝食、就寝時間」、「スポーツ」、「夏休みに対する構え（休み前にどんなことを計画していたか）」、「友人との諸活動など」が続く。

子どもたちの生活から地域性が喪失しているといわれるが、今回の調査でとらえた上記の領域、ことに外出行動には、きわめて大きな地域性が表れている。子どもの生活のすべ

なお、付表1において、「イタリック」は地域差が15%以上あることを意味し、さらにその内20%以上の地域差を示す数値は「太字・イタリック」で示した。調査対象者数から考えて、2割以上の差はかなり大きいものとみてよい。

③地域差の強く表れた調査事項に注目し、(1)から(10)の領域別に整理した（付表2）。具体的には20%以上地域差のあった調査項目と15%以上地域差のあった調査項目をカウントし、夏休みの地域差が大きな領域と地域差が小さな領域を識別した。

④さらに付表1を合わせて読んで、地域別の夏休みのプロフィールを描いた。

ての側面について、地域性が喪失してしまったわけではない。

2. 地域差がみられないのはどんな側面か？

それでは、逆に、地域差がみられないのは、どんな生活領域だろうか。同じく表1から次のことを指摘できる。

①地域差がほとんど表れていないのは、「夏休みを振り返って（夏休みのタイプ、どんな夏休みだったか）」と「家の中での過ごし方（テレビ視聴、マスメディアとの接触など）」である。これら2項目については、地域による比率の差（15%以上）が生じている項目が1つもない。外出行動において大きな地域差が表れていたのとは対照的に、家の中での諸行動（テレビ視聴、音楽を聞く、マンガを読む、読書など）には地域性がほとんどみられないことは注目されてよい。家の中での過ごし方については、地域によらず共通した夏休みを中学生は過ごしているのである。

②上であげた2項目に次いで地域差が小さいのは、「手伝い」と「勉強」である。ただし、勉強については地域差がまったくないわけで

表1 領域別地域差

20%以上の地域差が見られた事項比率		15%以上の地域差が見られた事項の比率	
外出行動	35.7	外出行動	50.0
起床時間、朝食、就寝時間	27.7	夏休みに対する構え	35.5
スポーツ	26.6	スポーツ	33.3
夏休みに対する構え	17.7	友人との諸活動など	33.3
友人との諸活動など	16.6	起床時間、朝食、就寝時間	27.7
逸脱的行動	14.8	逸脱的行動	25.9
勉強	9.5	勉強	19.0
手伝い	3.7	手伝い	7.4
家の中での過ごし方	0.0	家の中での過ごし方	0.0
夏休みを振り返って	0.0	夏休みを振り返って	0.0

はない。ことに地域差が大きいのは、勉強に「塾のテキストなどを使ったか否か」と「夏期講習参加率」であり、都市部でいずれも数値が高くなっている。これはいずれも学校外学習機会の多さや通塾行動の普遍化を反映したものと考えられる。しかし、学習習慣や宿題の消化のし方など、学習塾にかかわらない学習行動については、地域差が小さい。

3. どの地域とどの地域の差が大きいのか？

今回比較したのは、「都市部」「地方市街地」「地方郡部」の3地域類型である。それでは、この3地域タイプのうち、どこにもっとも大きな差があるのだろうか。それを知るために付表2をもとに作成したのが、表2である。

表2 地域差：どの地域類型間で差が大きいのか

	(全領域) (%)	
	20%以上比率の差がある事項の比率	15%以上比率の差がある事項の比率
[都市部]と[地方市街地]間	10.8	20.7
[地方市街地]と[地方郡部]間	10.8	16.8
[都市部]と[地方郡部]間	23.7	35.6

表2をみると、予想されるとおり、[都市部]と[地方郡部]間で地域差がもっとも大きいことがわかる。20%以上比率の差がある事項の比率をみても、15%以上のそれをみても同様の結果が出ている。

もっとも小さいのは、[地方市街地]と[地方郡部]の差である。20%以上比率の差がある事項の比率では、[都市部]と[地方市街地]間と等しいものの、15%以上の比率の差まで広げて考えると、このことがいえる。

以上から考えて、地域差は、都市部と地方郡部の間でもっとも大きく、地方市街地は両者の中間ないしやや地方郡部と近い位置にあるということが出来る。

(3) 地域別にみた夏休みのプロフィール

けれども、全体としてみた場合は上記のことがいえるにしても、生活領域別にみると、異なったパターンが表れている。つねに都市部と地方郡部の間の差がもっとも大きいわけではないし、また地方市街地と地方郡部の夏休みの生活が似かよっているわけでもない。

表3は、明瞭な地域差が認められた7領域について、そこでの地域差のあり方を要約的に示したものである。なお、地域差に一貫した傾向のみられない残りの領域は省略した。

表3にあげたように、地域差の表れ方は大別して3タイプがある(表では省略した解釈できないパターンを入れると4つ)。表3と付表1を手掛かりとして、地域別に異なった夏休みのプロフィールを最後に描くことにする。[タイプ1. 都市部と地方(郡部、市街地)の間に差が存在]

このタイプは、地方郡部と市街地の間に差が小さく、都市部で突出した傾向がみられるものである。「夏休みに対する構え」「勉強」の2領域が含まれる。

前者における都市部中学生の顕著な特徴は、第一に学校の部活動にせいを出そうと計画していた生徒の少ないこと、第二に旅行計画を立てた者が多いこと、第三に学習塾などの夏期講習に通う計画を立てた者が多いことである。これらは夏休みの計画であって、それがそのまま実行されたことを意味するわけではないが、実際の夏休みの生活にかなりの差異が生じたであろうことは十分予測できる。

他方、勉強領域での都市部の特徴は、夏期講習参加率の著しい高さや勉強に塾のテキストなどの教材を使った者が多いことである。地方郡部、市街地との差異は大きい。地方市街地は都市化が進展しているものの、この面では地方郡部に近い。いわゆる「乱塾」現象は大都市圏を中心とした現象であることがわかる。

これから、総じて、地方の中学生のほうが、部活動の面でも勉強面でも「学校化された夏休み」を送っており、また旅行計画の少なさから日常的な生活空間からの移動の少ない夏休みを送ったものと推測できる。

[タイプ2. 地方郡部と都市部・地方市街地の間に差が存在]

このタイプは、地方郡部の特徴が突出しているものである。「起床時間、朝食、就寝時間」「外出時間」の2つが含まれる。都市部と地方市街地の差が相対的に小さく、地域社会の都市化の程度に応じて変化する生活領域であると考えられる。

この領域での地方郡部中学生の特徴は、第一に早寝・早起きであること、第二に映画やコンサートに行った者が少ないこと、第三に部活動で学校などへ行った者が多いこと、第四に家族でハイキングやキャンプ、映画やコンサート、買い物に行くことが多く、友人との行動が少ないことである。他方、都市部および地方市街地の中学生は、おおむねその逆の特徴を示している。

映画やコンサートに行った者が都市部で多いのは、そのような機会が身近な地域社会や時間距離の短い場所に存在していることの反映である。また外出に際して、都市部と地方市街地で「友人と一緒に」が多く、地方郡部で「家族と」が多いのは、前者の中学生の夏休みの行動が「仲間集団準拠」(peer-group-based)の傾向が強く、後者が「家族準拠」(family-based)であることを意味している。その背景には、地方郡部から映画やコンサート、買い物に行く場合、友人とは行けなくらい遠方までの外出を意味しているという、地理的条件が存在すると考えられる。

[タイプ3. 3地域タイプの間に差がほとんど存在しない]

このタイプは、地域による差異が小さく、

中央（大都市圏）からの距離や地域社会の都市化の程度とかかわらない生活領域である。地域によらず共通した行動・意識パターンがみられる領域とってよい。「家の中での過ごし方」「手伝い」「夏休みを振り返って」の3領域が含まれている。

外出行動に関してはすでに述べたように大きな地域差がみられるものの、家の中での行動には地域差がみられない。このことは、行

(4) 要 約

1. 第2部では、夏休みの行動、意識にみられる地域差を探った。比較の対象としたのは、都市部、地方市街地、地方郡部の3地域類型である。

2. 3地域類型間で地域差が目立ったのは、予想されたとおり、都市部と地方郡部の間である。地方市街地は両者の中間ないしはやや地方郡部に近い特徴を示している。

3. 夏休みにおける行動、意識に地域差がみられなかったのは、「家の中での過ごし方（テレビ視聴、マスメディアとの接触など）」「夏休みを振り返って（どんな夏休みだったかなどについての主観的評価）」である。テレビの視聴時間や、音楽を聞く、マンガを読む、読書などの家の中での行動には大きな地域差がない。

4. 手伝いの習慣、学習にかかわる行動についても、おおむね地域差が小さかった。ただし、夏期講習への参加率、教材として学習塾などのテキストを用いるなどについては、都市部で突出した傾向を示していた。いわゆる「乱塾」現象は、日本全国いたるところにみられる現象ではなく、今回調査対象とした大都市圏に特徴的な現象である。

動様式、文化の地域差が、家の中での行動・文化から均質化されやすく、それに比べて地理的条件に依存する行動の差異が比較的持続されることを意味している。テレビ、ラジオ、マンガ、本などのマスメディアの普及状況には、大きな地域差が存在しないといえるが、この事実が家の中での中学生の行動から地域性を失わせていると考えることができる。

5. 家の中での行動に大きな地域差がみられなかったことと対照的に、外出行動（夏休みにどこなどへ誰と行ったか）については、顕著な地域差が見いだされた。この差は特に地方郡部とその他の地域（都市部、地方郡部）の間で目立った。地方郡部では、映画やコンサートに出かけた者が少なく、また外出する場合友人ではなく家族と行動をともにするケースが多かった。

6. 家の中での行動や、手伝いについては、地域差が認められなかったものの、総じてその他の領域では地域によって「夏休み」の生活は相違していた。地方の中学生、ことに郡部の中学生は、学校と家庭の影響力が強く、また他地域への移動が少ない、「学校化」され「定住型」の夏休みの特徴を示す。他方都市部の中学生は、学校の影響下から相対的に離れ、仲間集団との行動が多く、また旅行をはじめとする外出行動が豊富な、「脱学校型・外出型」の夏休みを経験したものと要約することができる。

表3 領域別にみた地域差の現れ方

		(%)		
領 域		都市部と地方郡部の差	都市部と地方市街地の差	地方市街地と地方郡部の差
タイプ1. 都市部と地方(郡部、市街地)の間に差が存在				
夏休みに対する構え	20%以上比率の差がある事項の比率	○ 26.6	○ 20.2	▲ 6.6
	15%以上比率の差がある事項の比率	53.3	26.6	26.6
勉強	20%以上比率の差がある事項の比率	○ 14.2	○ 14.2	▲ 0.0
	15%以上比率の差がある事項の比率	21.4	28.5	7.1
タイプ2. 地方郡部と都市部・地方市街地の間に差が存在				
起床時間 朝食 就寝時間	20%以上比率の差がある事項の比率	○ 33.3	▲ 16.6	○ 33.3
	15%以上比率の差がある事項の比率	33.3	16.6	33.3
外出行動	20%以上比率の差がある事項の比率	○ 57.1	▲ 7.1	○ 42.8
	15%以上比率の差がある事項の比率	64.2	28.5	57.1
タイプ3. 3地域類型の間に差がほとんど存在しない				
家の中での過ごし方	20%以上比率の差がある事項の比率	0.0	0.0	0.0
	15%以上比率の差がある事項の比率	0.0	0.0	0.0
手伝い	20%以上比率の差がある事項の比率	11.1	0.0	0.0
	15%以上比率の差がある事項の比率	11.1	11.1	0.0
夏休みを振り返って	20%以上比率の差がある事項の比率	0.0	0.0	0.0
	15%以上比率の差がある事項の比率	0.0	0.0	0.0